

どんびま

2009年10月6日発行
発行者 椛の湖農業小学校

天 上 大 風(てんじょうだいふう)

清貧と求道の人といわれる良寛の書に「天上大風」がある。

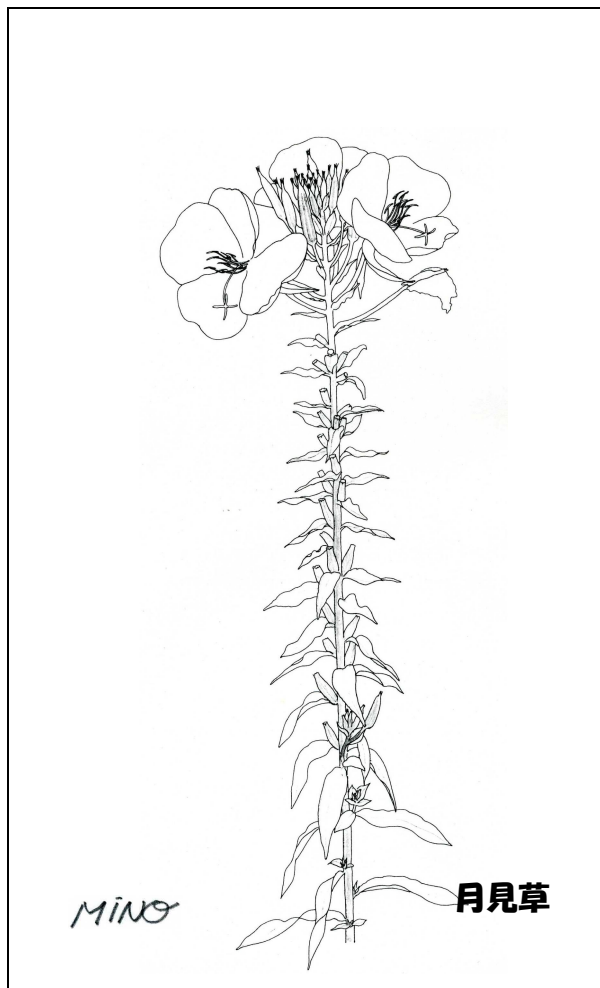
托鉢していた良寛が、子どもから大風を作りたいから書いてくれと頼まれ、書き上げたものだと言われている。

もともとの意味は「天上は天空、さらには宇宙を意味し、大風は仏の大なる慈悲の心をいう。つまり、この世は仏の慈悲の心が満ち満ちている」というものだ。

大風はありがたいが台風は困る。

大型の台風18号が近づいている。稲刈りはとうに終わっているが、トマトはまだ収穫最中。台風のコースによってはハウスの屋根を一時はずすことも……。

秋は気のもめる季節でもある。 (草)



10月授業日のご案内

- 日程 10月18日(日)
- 受付 9:00~ 9:30
- はじめの会 9:30~ 9:45
- 授業 9:45
- (収穫・畑仕事) ~12:00
- 昼食 12:00~13:00
- 授業 13:00
- (稲の脱穀・焼き芋) ~15:00
- 終りの会 15:00~15:30

●締め切り 10月12日(厳守)

●問い合わせ・緊急連絡

- 持ち物 手袋、タオル、雨具、着替え
買い物袋(たくさん)、箸、食器

●郷土料理 栗赤飯、豚汁ほか

☆文集の原稿を持参してください。

農小での楽しかったこと、心に残ったこと、ご意見、思い出の絵、何でも結構です。同封の原稿用紙に、濃く書いて下さい。(書き方は、4ページ)

10月の授業日に欠席の場合は、10月25日までに事務局山内まで郵送して下さい。

Tel.0573-75-4417・09051109362・
FAX0573-75-4418 (山内總太郎)

～とくちゃんの農小レポート～

栗拾いは楽しい+！いがは痛かった+～

今年は秋の長雨に会わず好天が続きました。その所為か栗は豊作のようでした。田舎のこの時期は果物をはじめ、栗とかキノコなど秋の味覚が目白押しです。

- 1 午前の授業。** 近くの栗園に出掛けて栗拾いをしました。今年は晩生の栗が豊作で沢山拾えたようで、中には3キロも買い取ってきた人もいました。栗は鬼皮、渋皮と剥かないと栗ご飯に出来ず大変な作業ですが、くりくり坊主とか云う皮むき器を使うととても便利です。
- 2 畑の作業。** グループの畑には白菜の苗を植えました。共有スペースにはキャベツ、芽キャベツ、ブロッコリーの苗を植え付けましたが、同じような形の苗が成長すると別々の野菜になります。良く観察してください。
- 3 昼食。** 松茸ご飯。茸のおすまし。じゃが芋ささげの煮物。南瓜の天ぷら。かぶのすぐり菜のごま和え。にんじんの潮吹き昆布あえ。ミディトマト。黒うりの粕漬
- 4 午後の授業。** 稲刈り。稲は各自2束ずつ刈り取ってきました。今年は刈り取り時期が遅くなり、10月までハザ干しするとお米が割れてしまうので、来月の脱穀体験用の2束のみ干します。後は機械で刈り取り玄米にします
- 5 バケツ稲コンクール。** 今年も35点の出品があり、先生方の審査により優秀作品が選ばれ、卒業式には表彰されます。今年うまくいかなかった方は先生方に原因を聞き、来年は好成績を目指して下さい。

～とくちゃんのちょっと一言～

一週間前は「桜の湖そばの花まつり」でしたが満開には早かったようで、授業日が見ごろを迎えており多くのカメラマンがきていました。昔は穀類の中でも主食の位置を占めていたことも有りましたが、今では嗜好品として「桜の湖そば」は好評を得ているようです。

かかしさんごくろうさま

8月1日のフォークジャンボリーにお客様を迎えてくれた農小のかかし達は、例年より1ヶ月長く風雨に耐えて、そばの花見物のお客さんの目も楽しませてくれました。

～あぼ兄の百姓ぼなし～

小さな秋をみつけた

ハガキいっぱいのお栗のイガの絵手紙が届いた。9月29日の消印で、「農小で孫がお世話になっている・・・」とのコメントが添えてあった。

秋の代表的な食べ物クリ。栗の木のある風景やその下での栗拾いは 田舎から街へ行った人にとっては、ふるさとを思い出す光景だと思う。

田舎にいるあぼ兄はちょっと違ったことを思い出す。昔は今のように大きなクリ（改良品種）はなく、山グリといって野生の小さいクリを拾って、大事にポケットに入れ、たき火をしているところで焼いて食べた。クリに傷を入れず火の中に入れると、ポーンと低い音とともに爆ぜて飛び散る。それがおもしろくてよくいたずらをしたのも思い出のうちだ。腹のすいているときは、焼けるまでが待ちきれず生のままでも食べた。

あぼ兄の家にも父親が栽培していた栗園がある。今でも巨木が50本程ある。当時の新品種で、この時期のクリは実が大きいし、イガも青いので絵になる。

国道257号線の中津川から下呂に通ずる途中にあぼ兄たちの直売所がある。何年か前から、クリだけでなく、イガ3ヶ入の小箱を出している。これがけっこう人気商品である。あるとき、街の人らしいおばさんが5箱まとめ買いされた。「5個もどうされますか？」と尋ねると、「1つは玄関に、もう1つは床の間に飾って、後はお土産にする。」と言われた。

直売所は野菜や食品だけでなく、季節も売っている。イガは田舎からちいさな秋を持ち帰ってもらうものだ。それが絵手紙となり送っていただいたことが嬉しかった。

農小で先月栗拾いをさせてもらったクリ園に、あぼ兄は堆肥を運んでいた時期があった。もう20年程前のことだが、あの頃はあのような高い塀はなかった。今では招かざる客イノシシ、リスなどの出没で電気牧柵や塀をしなければならなくなってしまったのだ。落ちた栗を拾うだけにみえて、クリ園の栽培も手がかかりなかなか大変なのだ。中津川といえは栗きんとんで有名。原料は地元産を使用していて、ほとんどの栗農家はそこへ契約出荷している。農小の栗拾いは地主さんのご好意で特別に引き受けていただいたものだ。

秋の味覚クリ。みなさんは先月の栗はどんな食べ方をしましたか？

栗きんとん？ 栗おこわ？ とりあえず冷凍??

あぼ兄は、子どもの頃のように焼いて食べてみたい。

ふるさとを思い出させる「クリの実♪♪～」全く歌えないあぼ兄でも唄が出そうだ。

農小作品展の募集

農小の授業の中には、物づくり体験も重要な課題となっています。卒業式には夏に作った作品など（農小以外の作品でもOK）を持ち寄って作品展を開きたいと思えます。父兄の皆さんや先生、スタッフもぜひ参加をお願いします。

農小で写真を取られ方は「思い出の一枚」（サイズは自由）を持ち寄ってください。農小写真コーナーも開きます。

10月に持参して頂き、前もってレイアウトして卒業式に発表します。11月でなければ出品できない物については、申し出ておいていただければ、スペースを空けておきます。

文集原稿の書き方についてお願い

原稿用紙は2種類あります。

- ・低学年（3年生以下）は10ミリ方眼に書いて下さい。
- ・高学年と親さんは7ミリ方眼に書いて下さい。中央の左右横2列づつを空けて、太い線の枠内に2段に書いて下さい。
- ・どちらも太い線の枠内の最初に「題」と「氏名」を書いて下さい。

皆さんの原稿はそのままコピーをとって印刷にかけますので、できるだけ濃く書いて下さい。鉛筆なら2B・4Bがいいかも。

消しゴムで消して書き直す場合は前の字をきれいに消して下さい。

文章だけでなく、絵・スケッチももちろんO.K.です。

皆さんの一番心に残った事、楽しかった事、関心があった事など何でもお書き下さい。

農業小学校に対するご意見も是非お願いいたします。

